

## 使用上の注意点

(Alert Notes)

### HP-UX 版 SAS システムリリース 6.12(TS060)

「使用上の注意点(Alert Notes)」は、インストール前あるいはソフトウェアを使う上において、知っておく必要のある問題点を列挙しています。不明な点がございましたら、SAS インスティテュートジャパン・テクニカルサポート(TEL:03-3533-3877 受付: 9:00-12:00,13:00-17:00)までご連絡ください。

#### 目次

インストレーション .....	2
HP-UX10.x 上でのセットアップ .....	4
HP-UX11.0 上でのセットアップ .....	5
Base SAS ソフトウェア .....	6
SAS/EIS ソフトウェア .....	9
SAS/ETS ソフトウェア .....	10
SAS/FSP ソフトウェア .....	10
SAS/IML ソフトウェア .....	10
SAS/STAT ソフトウェア .....	10
SAS/ACCESS ソフトウェア INFORMIX インターフェース .....	12
SAS/ACCESS ソフトウェア INGRES インターフェース .....	13
SAS/ACCESS ソフトウェア ODBC インターフェース .....	14
SAS/ACCESS ソフトウェア ORACLE インターフェース .....	14
SAS/ACCESS ソフトウェア SYBASE インターフェース .....	15
修正モジュールの提供に関するご案内 .....	17

## インストレーション

- ほとんどの OS 上での最新の SAS システムは 2000 年問題に対応しておりますが、この注意をお読みになって、正しい対応をしていただき、SAS システムを利用したプログラムやアプリケーションが 2000 年以降の日付も正しく扱えることを確実にしてください。

(リリース 6.04 以降の) SAS ソフトウェアは、2 桁で表された西暦の上位 2 桁を決定するために YEARCUTOFF= オプションを使用します。例えば、YEARCUTOFF=1900 と設定されると、SAS アプリケーションでは、2 桁の年は 1900 年から 1999 年の年として扱われます。YEARCUTOFF=1950 と設定されると、50 から 99 の間の年は 1900 年代、0 から 49 の間の年は 2000 年代として扱われます。

(リリース 6.04 以降の) SAS ソフトウェア バージョン 6 では、各サイトの SAS ソフトウェアの管理者が設定を変更しない限り、YEARCUTOFF= の初期値は 1900 です。よって、SAS ソフトウェアで扱われる 2 桁の年は、全て 1900 年代のものとして扱われ、2000 年 1 月 1 日以降の日付が 2 桁の年によって表された場合、誤った結果を戻す可能性があります。2 桁の年の正しい処理をするためには、YEARCUTOFF=オプションの値を確認して、必要ならば変更してください。YEARCUTOFF=オプションの値を確認するためには、SAS システムを起動して下記のステートメントをサブミットしてください。

```
PROC OPTIONS OPTION=YEARCUTOFF;  
RUN;
```

YEARCUTOFF=オプションの値が LOG ウィンドウに表示されます。もし YEARCUTOFF=オプションの値が 1900 となっている場合、値を 1920 から 1950 の間に変更することをお勧めします。適正な値は SAS アプリケーションで処理するデータの日付の期間によって決まります。もし 2020 年以降の日付値を扱わない場合、YEARCUTOFF=1920 と設定することができます。もし SAS システムで 2020 年以降の日付値を扱う場合は、YEARCUTOFF=の値を、1930 や 1950 等の高い数値に設定してください。YEARCUTOFF=の初期値を変更する方法は、(他のシステムオプションと同様に)オペレーティングシステムによって変わります。ご使用のオペレーティングシステムの「使用の手引き」マニュアルを参照してください。

また、SAS システムの管理者や SAS コンサルタントが、各サイトのユーザーに YEARCUTOFF の初期設定を伝えることをお勧めします。ユーザーに伝える簡単な方法は、NEWS システムオプションを使用して、LOG ウィンドウに情報を表示する方法です。NEWS オプションの詳細は、ご使用のオペレーティングシステムの「使用の手引き」、又は SAS システムのオンラインヘルプを参照してください。YEARCUTOFF=オプションの働きや、適正な値の求め方についてのその他の詳細は弊社のウェブサイトにある「A Guide to the YEARCUTOFF= Option」を参照してください。

<http://www.sas.com/techsup/download/technote/ts618.html>

ウェブサイトへのアクセスが不可能な場合は、上記の文書のコピーを差し上げますので、弊社テクニカルサポートグループ（03-3533-3877）までご連絡ください。通常どおり、弊社では最新バージョンの SAS システムをご使用なさることをお勧めいたします。弊社のウェブページに、SAS ソフトウェア製品における 2000 年対応についての全ての情報がございます。

<http://www.sas.com/y2k>

- TS050 または TS060 にアップグレードされた SAS システムに新しい SAS プロダクトを追加する時は、SAS プロダクトの追加後に、必ずメンテナンスを再適用してください。もし再適用しなかった場合、SAS システムのメンテナンスの不一致が起こります。そのような SAS システムを稼動すると、予想できない結果を招きます。インストールプログラム `sasmanager` を実行し、以下の手順でメンテナンスを再適用します。詳細はインストレーションガイドを参照してください。

- Invoke Custom Installation and Utilities...
- Invoke SAS Installation Utilities...
- Apply Special Tech Support Fixes (supplied with SAS Notes)

- International Support メニューで Japanese または Japanese EUC のどちらかひとつだけ選択した場合、後のメニューでデフォルトの言語を選択したときに以下のようなエラーメッセージが出力されますが、インストレーションおよび動作に支障はありません。そのままインストレーションの処理を進めてください。

Choose the default language for the production level:

- \*1. DBCS without language files
- 2. Japanese and DBCS files
- 3. English
- 4. Cancel

(Enter h for help)

Which option? [1] 2

Applying new setinit information...

What is the pathname of your setinit program? [/usr/lib/sas612/setinit.sas]

```
Is /usr/lib/sas612/setinit.sas correct (y/n)? [y]
```

Error: An error occurred while applying the setinit information.

Please check log file /usr/lib/sas612/setinit\_japanese.secondary\_encoding.log for messages.

- HP-UX 9.x 上で SAS システムを使用するときには、実行ファイルに、555 のパーミッションを設定しないとパフォーマンスが落ちます。!SASROOT/sasexe ディレクトリ下のすべてのファイルには、この問題を回避するために、デフォルトで 555 のパーミッションが設定されています。HP-UX10.x においては、-r-xr-xr-x 以上のパーミッション(i.e. -rwxrwxr-x など)を設定する必要があります。

注意：この問題は、TS060 のダイナミックロードモジュールにも影響します。SAS/ACCESS ソフトウェアや SAS/TOOLKIT ソフトウェアでオンサイトリンクされたダイナミックロードモジュールにも影響するため、リンクや追加インストールの前後において次のようにパーミッションを設定して下さい。

1. 追加インストールやリンクをする前に!SASROOT 下のファイルに上書きできるパーミッションが設定されている必要があります。次のコマンドを実行して下さい。

注意: "!SASROOT" を実際に SAS をインストールしたディレクトリに書き換えて以下のコマンドを実行して下さい。

```
cd !SASROOT/sasexe  
find . -type f -exec chmod -w {} \;
```

2. リンクまたは追加インストールを行ってください。

3. 更新が完了したら、元のパーミッションに戻す必要があります。次のコマンドを実行して下さい。

```
cd !SASROOT/sasexe  
find . -type f -exec chmod -w {} \;
```

## HP-UX10.x 上でのセットアップ

HP-UX10.x 上で SAS システムを使用する場合は、インストレーションガイドに従って一般的なセットアップ

ップを行った後、以下の設定を行ってください。

- X リソースファイルの変更

SAS システム起動時にロードされる X リソースファイル(/usr/lib/X11/app-defaults/SAS)に以下の項目を追加してください。

```
SAS.*fontList: -hp-gothic-medium-r-normal--16-*-*:
```

```
SAS.*fileSelect*fontList: jpn.8x18, j16.16x18
```

また、各ユーザごとにウィンドウシステムが立ち上がるときにロードされるリソースファイルに以下の項目を追加する必要があります。

```
SAS*xnl Language: japanese
```

(手順)

```
% echo "SAS*xnl Language: japanese" | xrdp -merge
```

ウィンドウシステムによりリソースを記述するファイルが異なりますので、以下のような SAS システム起動スクリプトを作っておくと便利です。

```
#!/bin/csh
```

```
echo "SAS*xnl Language: japanese" | xrdp -merge
```

```
/usr/lib/sas612/sas $*
```

## HP-UX11.0 上でのセットアップ

HP-UX11.0 上で SAS システムを使用する場合は、インストレーションガイドに従って一般的なセットアップを行った後、以下の設定を行ってください。

- X リソースファイルの変更

SAS で提供している /usr/lib/sas612/dbcs/X11/SAS.hp のリソースファイルを使用した場合次のエラーメッセージが出力されます。

```
WARNING: フォント 'jpn.8x18' をロードできません.
```

```
WARNING: Defaulting to 'fixed'.
```

```
WARNING: フォント 'jpn.8x18' をロードできません.
```

```
WARNING: Defaulting to 'fixed'.
```

WARNING: フォント 'j 16. 16x18' をロードできません.

WARNING: Defaulting to 'fixed'.

WARNING: フォント 'j 16. 16x18' をロードできません.

WARNING: Defaulting to 'fixed'.

これは、/usr/lib/sas612/dbcs/X11/SAS.hp で指定しているフォントが、HP-UX11.0 より提供されていないことによります。この問題を回避する方法として、SAS システム起動時にロードされる X リソースファイル(/usr/lib/X11/app-defaults/SAS)の内容を以下のようにしてください。

```
SAS. *font:          a14
SAS. *DBfont:       k14
SAS. DMSFont:      a14
SAS. DMSDBFont:    k14
SAS. DMSboldFont:  a14
SAS. DMSDBboldFont: k14
SAS. keyboardTranslations: #override ¥
  Ctrl <Key>space:  sas-begin-conversion() ¥n¥
  <Key>Meta_L:     sas-begin-conversion() ¥n¥
  <Key>Meta_R:     sas-toggle-katakana() ¥n
SAS. fontCharset:  jisx0201.1976-0
SAS. fontDBCharset: jisx0208.1983-0
SAS. *fontList:   a14, k14
```

## Base SAS ソフトウェア

- ホスト印刷機能につきましては、日本語版での提供が行われていないため、お使い頂くことが出来ません。
- SAS システムリリース 6.12 を X ウィンドウ環境で起動すると、プラットフォームにより以下のような Warning が出力される場合がありますが動作上問題はありません。

Warning: locale not supported by Xlib, locale set to C

- 「HP-UX 版 SAS システムリリース 6.12 (TS020) システム必要条件」の資料には、HP PA-RISC 1.0 が記載されているモデルはサポートされないことが記載されています。HP PA-RISC 1.0 のモデ

ルでリリース 6. 12 を起動しようとする、次のようなエラーメッセージが出力されます。

Executable file incompatible with hardware.

- HP-UX 10. x 上で SAS システムを使用する場合、SAS 起動コマンドを入力したターミナルウィンドウに以下のような Warning が出力されることがありますが、処理に影響を及ぼすような問題はありません。

Warning: Cannot convert string "-hp-gothic-bold-r-normal --16-\*-\*-\*jisx0201.1976-0, -hp-gothic-bold-r-normal --16-\*-\*-\*jisx0208. \*-0, -hp-gothic-bold-r-normal -noglyph-16-\*-\*-\*jisx0212.1990-0" to type FontSet

- HP-UX 10. 20 上で SAS システムを使用する場合、SAS 起動コマンドを入力したターミナルウィンドウに以下のような Warning が出力されることがありますが、処理に影響を及ぼすような問題はありません。

Warning: Missing charsets in String to FontSet conversion

Warning: Missing charsets in String to FontSet conversion

- X ウィンドウ環境で SAS システムを使用する場合、他の X アプリケーションとの間で文字列のカット & ペーストが正常に行えない場合があります。
- CDE1.0(Solaris2.5、AI X4.1 以上など) が動作するシステムでは、論理フォント名に「-dt-application-」「-dt-interface system-」「-dt-interface user-」を含むフォントを提供しています。SAS システムでこれらのフォントを使用するように変更しても、その設定を保存することができません。この現象を回避することはできません。
- HP-UX 10. 20 から HP の Virtual Memory Management System が変更されたことにより、SAS システムリリース 6. 12 はデフォルトで non-shared memory モードで動作するようになりました。non-shared memory モードで SAS システムが動作する場合、同時に複数の SAS セッションを起動すると shared memory モードの場合よりも多くのメモリを必要とするためパフォーマンスが悪くなります。リリース 6. 12 では次の処理を行うことにより、SAS システムを shared memory モードで動作させることができるようになります。

注意：以下の処理を行うには、SAS Notes がインストールされている必要があります。また、この処理を行うと、SAS システムは HP-UX 10. 20 よりも前の OS 上では動作しなくなります。HP-UX

10. 20 よりも前の OS でも SAS システムを使用する場合は、SAS システムのモジュールを別にコピーしておく必要があります。

1. SAS システムを導入したユーザ ID でログインし、ワーキングディレクトリをリリース 6. 12 の SAS ルートディレクトリに変更します。

(例)

```
# cd /usr/lib/sas612
```

2. 必要であれば sasexe ディレクトリのバックアップを取ります。

3. インストールプログラム sasmanager を起動し、以下の順番でメニューを選択します。

1. Invoke Custom Installation and Utilities...

3. Invoke SAS Installation Utilities...

2. Apply Special Tech Support Fixes (supplied with SAS Notes)

この後は順次 Go Back を選択して sasmanager を終了してください。

4. 次に utilities/bin ディレクトリにある patch1020 スクリプトを実行します。

```
# utilities/bin/patch1020
```

このスクリプトはモジュールを変更する前に、SAS ルートディレクトリや処理の続行を確認するためのメッセージを出力します。問題がなければ y を入力して進めてください。変換処理が終了すると、自動的に確認のための SAS プログラムが実行されます。

```
Checking to see if SAS is running in shared memory mode
```

```
/usr/lib/sas612/dbcs/sasexe/saswzsd c18cf000 7b025000 1
```

```
/usr/lib/sas612/sasexe/base/sasds c0a3b000 7b01c000 1
```

```
/usr/lib/sas612/dbcs/sasexe/sasdsa c21af000 7b018000 1
```

Refer to the ALERT NOTES for an explanation of the output

出力されるリストの左から 2 番目の項目が c で始まっている場合は SAS システムが sharedmemory モードで動作していることを示しています。(例 : c18cf000)

- オンライン・ドキュメントやヘルプ項目を印刷する新機能を利用する場合、PCL ドライバを用いてプリンタに出力することはできません。PostScript ドライバを使用することでこの問題を回避できま

す。

- RANPOI 関数の乱数生成において、(7, 85)の範囲にある非整数値の平均をもつポアソン分布の乱数を生成した場合、不正な値を出力します。この問題を回避するには、非整数値の平均を整数部分と小数部分に分離し、2つのポアソン乱数を生成した後に、これらの乱数を足し合わせてください。例えば、平均が8.2であるポアソン乱数を生成する場合、下記のように行ってください。

```
x1=ranpoi (seed, 8);  
x2=ranpoi (seed, .2);  
x=x1+x2;
```

- RANBIN 関数は、特定の条件下で誤った結果を戻す場合があります。RANBIN 関数の第2引数(N)が正確には整数でなく、 $1 - 1e-12 \leq N < 1$  (1が整数の時)の範囲に入っている場合、RANBINはN-1を誤って第2引数としてしまいます。

たとえば、次のプログラムは、変数 right には正しい値 12 を戻しますが、変数 wrong には誤った値 11 を戻します。

```
data _null_;  
  n=12;  
  wrong=ranbin(12345, n - .0000000000001, .99999999);  
  right=ranbin(12345, n, .99999999);  
  put wrong= right=;  
run;
```

この問題は RANBIN 関数の第2引数が DATA ステップで計算された場合に起こる可能性が高くなります。この問題を回避するためには、INT 関数を第2引数に適用してください。上記の例では、wrong の計算を下記のように変更してください。

```
wrong=ranbin(12345, int(n - .0000000000001), .99999999);
```

## SAS/EIS ソフトウェア

- グラフ対比分析レポートオブジェクトでは、初めのサブグループの棒グラフの棒のカラーが誤って表示される場合があります。この現象は、グラフ内に良好、不調の両方の棒が存在する場合に発生しま

す。例えば、不調時のカラーで表示されなければならないものがいくつか含まれているのに全ての棒が良好時のカラーで表示されることがあります。

## SAS/ETS ソフトウェア

- MODEL プロシジャにおいて、 $y = -a + b \cdot x$  のように切片パラメータに負の符号を付けたモデル式を指定し、GMM 法で推定した時に、間違っただけの結果が出力されたり収束しなくなる場合があります。この問題を避けるには、切片パラメータに対する符号が負にならないようにモデル式を指定して下さい。
- MODEL プロシジャにおいて、WEIGHT ステートメント、あるいは \_WEIGHT\_ 変数を用いて重み付きの推定を行い、FIT ステートメントの CHOW オプションによって Chow 検定を行った場合、その検定統計量および p 値は不正な値になります。したがって、Chow 検定の統計量および p 値は欠損値、あるいは誤った数値として出力されます。

## SAS/FSP ソフトウェア

- FSVIEW プロシジャでウィンドウに入りきらないような長さの文字変数の値を更新した場合、更新後の値の長さはウィンドウに表示されている長さになります。この問題を回避するには、FSEDIT ウィンドウを使用して下さい。

## SAS/IML ソフトウェア

- ODE ルーチンにおいて、2次元以上の問題を解く場合、ヤコビ行列を「jacobian」にオプション指定した時、ステップ幅が誤って計算され、正確な値が得られないことがあります。この問題を回避するには、ヤコビ行列を指定しないで、ODE ルーチンを実行して下さい。

## SAS/STAT ソフトウェア

- NLIN プロシジャにおいて、特殊変数 \_WEIGHT\_ の導関数(と DUD 法で用いられる差分)は、パラメータに関して計算されません。すなわち、変数 \_WEIGHT\_ がパラメータの関数であったとき、目的関数 (SSE) の勾配やヘシアンには寄与しません。反復再重みつき最小二乗法 (IRLS) を実行するときには、この反復計算は適切です。ユーザー指定の損失関数を使った推定を実行したいときには、この反復計

算は適切ではありません。

- PHREG プロシジャにおいて、MODEL ステートメントに OFFSET オプションを指定した場合、BASELINE ステートメント OUT オプションで出力される値は、オフセット変数を含まない形で算出されます。また、OUTSTAT オプションで出力されるデータセットには、オフセット変数に対するパラメータ推定値は、出力されません(なお、オフセット変数に対するパラメータ推定値は1です)。
- NLIN プロシジャにおいて、BOUNDS ステートメントを指定した場合、収束基準に達していなくても、それに達した旨のメッセージが出力され、反復計算が終了してしまうことがあります。
- CATMOD プロシジャの REPEATED ステートメントにおいて、2つ以上の被験者内要因が指定されており(例: REPEATED TIME 2, TRIAL 2;) かつ、MODEL ステートメントにおいて、被験者間要因と被験者内要因との交互作用が指定されていた場合(例: GROUP\*\_RESPONSE\_)、分散分析表("Analysis of Variance Table")における交互作用に対する検定が誤った値になります。また、WLS 推定値の表("Analysis of Weighted-Least-Squares Estimates")において、パラメータ推定値が(値は正しいのですが)誤った順番で表示されます。CATMOD プロシジャによって作成されるデザイン行列の各列ベクトルは正しいのですが、(被験者内と被験者間の交互作用が2つ以上の列を必要とする時)作成されたデザイン行列の各列は、WLS 推定値の表との順番とは異なる対応となっています。その結果、分散分析表の結果も誤ったものになります。デザイン行列を見て、どの列が交互作用になっているかを調べた後、CONTRAST ステートメントによって対比を指定すれば、正しい結果を得ることができます。この問題が生じていることは、REPEATED ステートメントの \_RESPONSE= オプションにおいて、被験者内要因の順番を変更することによって、検定結果が異なることによって確認できます。
- MULTTEST プロシジャにおいて、TEST ステートメントで FISHER を用いた時、もし、応答変数に指定された変数のいずれかに欠損値があり、かつ、CONTRAST ステートメントで定義されたグループに欠損値を持つオブザベーションが含まれている場合、OUT=オプションによって出力されるデータセットの変数\_X\_と変数\_Y\_が誤った値になります。なお、output ウィンドウに表示されている値のほうは正しいです。また、output ウィンドウおよびデータセットにおける他の統計量(p値など)も、正しい値になっています。
- CALIS プロシジャ内で FACTOR ステートメントによって出力される因子得点を求めるための回帰係数("Factor Score Regression Coefficients")は誤っています。

正しい結果を得るためには、FACTOR ステートメントではなく、LINEQS ステートメントを使用して、潜在変数の得点を求めるための回帰係数("Latent Variable Score Regression

Coefficients" ) を求めてください。

(ただし、FACTOR ステートメントで指定された因子分析モデルが尺度不変である時は、正しい値になっています。分散共分散行列をもとに推定を行なった時の標準化因子負荷量と、相関行列をもとに推定を行なった時の非標準化因子負荷量とが同じである時に、因子分析モデルは尺度に対して不変になっています。CALIS プロシジャにおいて、分散共分散行列をもとに推定を行なう時には COV オプションを指定します。COV オプションを指定しなかった場合には、相関行列をもとに推定が行なわれます)。

## SAS/ACCESS ソフトウェア INFORMIX インターフェース

- HP-UX 9. x 上で動作する ESQL/C V6 または V7 とオンサイトリンクを行う際には libV3.a ファイルが必要となりますが、通常 HP-UX 9. x ではこのライブラリは提供されていません。この場合は、Hewlett-Packard 社よりこのファイル入手する必要があります。詳細につきましては弊社テクニカルサポートまでお問い合わせください。
- HP-UX 10. 20 上で SAS システムを使用するために、patch1020 スクリプトによりモジュールを変換した場合は、SAS/ACCESS ソフトウェアのためのオンサイトリンクにより作成されたモジュールに対しても変換する必要があります。

!sasroot/sasexe/dbi /sasnfxfファイルを以下のコマンドで変換してください。

```
# cd /usr/lib/sas612
```

```
# chmod 0777 sasexe/dbi /sasnfxf
```

```
# utilities/bin/drel -f -m 7 sasexe/dbi /sasnfxf
```

```
# chmod 0555 sasexe/dbi /sasnfxfInformix
```

- ESQL/C 7. 20 を使用している場合、オンサイトリンクの際にエラーが発生します。この問題を解決するためには、Informix7. 20 に対応した sas612/sasexe/dbi /sasnfxf ファイルを使用する必要があります。このファイルはダウンロードしていただくことができます。このファイルをダウンロードした場合はオンサイトリンクを行う必要はありません。

ダウンロードの手順につきましては、「修正モジュールの提供に関するご案内」の項をご参照ください。

- Informix の NCHAR または NVARCHAR タイプのカラムを持つテーブルを SQL プロシジャのパススルー機能で読み込もうとすると、以下のエラーが発生します。

ERROR: Unrecognized and unsupported datatype found in this query. The query cannot be executed.

この問題を解決するための修正モジュール(sas612/sasexe/dbi /sasi oi nf ファイル)は、次のサービスを利用してダウンロードしていただくことができます。

ダウンロードの手順につきましては、「修正モジュールの提供に関するご案内」の項をご参照ください。

## SAS/ACCESS ソフトウェア INGRES インターフェース

- INGRES のテーブルから dateti me 値を読みこむビューディスクリプタを作成した場合、SAS システム上では異なる dateti me 値になります。dateti me 値は、タイムゾーンと夏時間の設定内容によって1またはそれ以上の時間異なってしまいます。

この問題は、タイムゾーンと夏時間が異なる場合に、OpenIngres クライアントが OpenIngres サーバーから dateti me 値を正しく受け取ることが出来ないことに関係しています。

この問題は、SAS/ACCESS ディスクリプターを使用した場合にのみ起こります。

この問題を回避するためには、INGRES の dateti me 値に対して SQL のパススルーの機能を使って読みこんでください。SQL パススルー機能を用いて正しく dateti me 値を読み込むためには、最初に II\_DATE\_FORMAT を fi nl and に設定しなければいけません。

UNIX 上では環境変数を次のように設定します。

Korn shell の場合

```
export II_DATE_FORMAT=fi nl and
```

C shell の場合

```
setenv II_DATE_FORMAT fi nl and
```

- INGRES のバージョンが 1. 1 /04 の場合、ACCESS プロシジャや DBLOAD プロシジャで DBMS にアクセスしようとしたときに Segmentati on Vi ol ati on が発生する場合があります。INGRES 1. 2 では発生しません。この問題の詳細につきましては弊社テクニカルサポートまでお問い合わせください。
- HP-UX 10. 20 上で SAS システムを使用するために、patch1020 スクリプトによりモジュールを変

換した場合は、SAS/ACCESS ソフトウェアのためのオンサイトリンクにより作成されたモジュールに対しても変換する必要があります。

!sasroot/sasexe/dbi /sasi ng ファイルを以下のコマンドで変換してください。

```
# cd /usr/lib/sas612
# chmod 0777 sasexe/dbi /sasi ng
# utilities/bin/drel -f -m 7 sasexe/dbi /sasi ng
# chmod 0555 sasexe/dbi /sasi ng
```

## SAS/ACCESS ソフトウェア ODBC インターフェース

- HP-UX 上では、データソースを選択するために定義されているデータソースの一覧のウィンドウを表示する機能はサポートされていません。このため、SQL プロシジャのパススルー機能の PROMPT, COMPLETE および REQUIRED オプションは無視されます。
- VigenicODBC Driver V1.1 を使用している場合、一つの SAS セッション中に接続できる DBMS は一つだけに限られます。例えば、ORACLE に接続した後同じセッション内で SYBASE に接続しようとすると SQL プロシジャで Segmentati on Vi ol ati on が発生します。Sybase System10 ODBC Driver を使用する場合、SAS セッションがシェルスクリプトから起動されていないと Segmentati on Vi ol ati on が発生します。

## SAS/ACCESS ソフトウェア ORACLE インターフェース

- HP-UX 10.20 上で SAS システムを使用するために、patch1020 スクリプトによりモジュールを変換した場合は、SAS/ACCESS ソフトウェアのためのオンサイトリンクにより作成されたモジュールに対しても変換する必要があります。

!sasroot/sasexe/dbi /sasorav7 または !sasroot/sasexe/dbi /sasorav6 ファイル (ORACLE のバージョンによります) を以下のコマンドで変換してください。

```
# cd /usr/lib/sas612
# chmod 0777 sasexe/dbi /sasorav7
# utilities/bin/drel -f -m 7 sasexe/dbi /sasorav7
# chmod 0555 sasexe/dbi /sasorav7
```

- SAS/ACCESSソフトウェア ORACLE インターフェースにおいて、ORACLE7. 3. 3へアクセスした場合、NTP エラーが発生し、SAS システムがハングアップすることがあります。これは、ORACLE データベースのデフォルト Bequeath(BEQ) ドライバとともに、ORACLE7. 3. 2 で提供されているライブラリをリンクしている SAS システム・リンク済モジュール sasorav7 を使用する場合に発生します。

ORACLE 用環境変数 TWO\_TASK を設定してもこの問題を回避することはできません。また、ORACLE7. 3. 3 で提供されているライブラリをリンクし、sasorav7 モジュールを再作成することでも回避することはできません。これは HP-UX10. 20 以上での SAS/ACCESS ソフトウェア ORACLE インターフェースは、shared library のリンクをサポートしていないからです。

ORACLE が提供するドライバで、Bequeath(BEQ) ドライバ以外のものを使用することでこの問題を回避できます。例えば、TCP/IP ドライバと、ORACLE7. 3. 2 で提供されているライブラリをリンクしている SAS システム・リンク済モジュール sasorav7 を使用することで ORACLE へのアクセスは可能です。

- HP-UX11. 0 上で SAS/ACCESS ソフトウェア ORACLE インターフェースをインストールするときに "USE PRELINKED IMAGE?" の問いに対して "y" を入力して下さい。HP-UX11. 0 上で SAS システム リリース 6. 12 は、オンサイトリンクで SAS/ACCESS Interface to ORACLE のリンクモジュールを作成することができません。このリンク済みのモジュールを用いて ORACLE7. 3. 3. 4. 1、8. 0. 3. 2. 0、8. 0. 4 と接続することが可能です。ただし、現在、ORACLE7. 3. 4 付属の SQL\*NET を使用した接続につきましては、動作確認ができておりません。ORACLE への接続に関する最新情報は、弊社テクニカルサポートまでお問い合わせください。

## SAS/ACCESS ソフトウェア SYBASE インターフェース

- HP-UX 10. 20 上で SAS システムを使用するために、patch1020 スクリプトによりモジュールを変換した場合は、SAS/ACCESS ソフトウェアのためのオンサイトリンクにより作成されたモジュールも変換する必要があります。

! sasroot/sasexe/dbi /sassyb ファイルを以下のコマンドで変換してください。

```
# cd /usr/lib/sas612
```

```
# chmod 0777 sasexe/dbi /sassyb
```

```
# utilities/bin/drel -f -m 7 sasexe/dbi /sassyb
```

```
# chmod 0555 sasexe/dbi /sasorav7
```



## 修正モジュールの提供に関するご案内

SAS インスティテュートジャパンは、製品出荷後に発見された不具合に対する修正モジュールなどを次のサービスにより提供しています。

### 1. NIFTY-Serve SAS ステーション

GO SAS コマンドで SAS ステーションへアクセスし、[ 4. データライブラリ ] [ メンテナンスモジュール ] を選択して、最新の修正モジュールを入手することができます。また、[ 4. データライブラリ ] [ ドキュメント ] を選択して最新情報をご覧ください。

### 2. World Wide Web(WWW)

WWW ブラウザを用いて、SAS インスティテュートジャパンのホームページ (<http://www.sas.com/offices/asiapacific/japan/>) にアクセスし、[ テクニカルサポート ] [ FTP サービス ] [ FTP サービス - サーバに接続 ] [ maint/ ] を選択して、最新の修正モジュールを入手することができます。また、[ テクニカルサポート ] [ SAS FAQ ]、[ SAS HOW-TO ]、[ SAS Notes( Version 6 ) ] などを選択して最新情報等をご覧ください。

### 3. Anonymous FTP サービス

ftp コマンドを用いて、米国 SAS Institute Inc. の FTP サーバ(ftp.sas.com) にアクセスし、/pub/webfiles/Japan/maint ディレクトリに移動して、最新のモジュールを入手することができます。ユーザID、パスワードは以下のように入力してください。

```
% ftp ftp.sas.com
ftp> Name(ftp.sas.com:userid) : anonymous
ftp> Password: お客様の E-mail アドレス
ftp> cd /pub/webfiles/Japan/maint
```

上記サービスをご利用頂けないお客様で、修正モジュールが必要な場合には弊社テクニカルサポートまでお問い合わせください。

本文書の内容に関するお問い合わせは、弊社テクニカルサポートまでお願い致します。

### 株式会社 SAS インスティテュートジャパン

<b>本社</b>	〒104-0054 東京都中央区勝どき 1-13-1 イヌイビル・カチドキ 8F T E L : 03-3533-6921      F A X : 03-3533-6927
<b>大阪支店</b>	〒530-0004 大阪市北区堂島浜 1-4-16 アクア堂島西館 12F T E L : 06-6345-5700      F A X : 06-6345-5655
<b>九州営業所</b>	〒802-0001 北九州市小倉北区浅野 2-14-1 小倉興産 KMM ビル 3F T E L : 093-512-5014      F A X : 093-512-5016
<b>テクニカルサポート</b>	T E L : 03-3533-3877      F A X : 03-3533-3781

本文書の内容は予告なく変更されることがあります。

SASおよび米国 SAS Institute Inc.の他のすべてのプロダクト名、サービス名は米国 SAS Institute Inc.の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

その他本文中で使用しているシステム名、製品名は一般に各社の商標または登録商標です。